

2019年猪苗代湖の上位蜃気楼発生状況

星 弘之（北海道・東北蜃気楼研究会）

1.はじめに

今年は昨年より雪が少なく、自宅で除雪したのは短時間で3回程度、アスファルト道路は雪が降っても次日には消えているような状況であった。しかしながら西風が強く継続、上位蜃気楼の発生に必要な条件が出来なかった。そんな中、3月20日に初見、4月17日、18日に会うことが出来た。観測は現在まで3回しかできなかった。

今年出会えた上位蜃気楼の中から私の印象に残ったものを紹介する。

2.3月20日(初見)

漸く、今年初の上位蜃気楼を見ることが出来て一安心、今年も姿を現してくれたことに感謝した。変化はほとんど湖面に近い部分が僅かに変化する程度で魚津のランクでいうとEランク程度。湖面付近で発生、消滅を繰り返し最後には湖面に降りて終息した。



【志田浜のホテル前の砂浜や建物が蜃気楼化】



【堅田中丸交差点付近の湖岸が変化】

3.4月17日(2回目)

この日は観測対象が良く見え、色もよく出ていて撮影には好都合だった。撮影したものの中に非常に面白い画像があった。観測対象物のカントリーエレベーターとカメリーナの間にクレーン車のブームが斜め約45度と絶好の位置と角度にあった。屈曲の程度から見ると単純な屈折(温度構造)ではないことが良くわかった。また、蜃気楼の変化の始まりを察知するのに指標としてい



【カントリーエレベーター付近のクレーンブームが大きく変化】



【関都方面の屋根が斜めの建物が複雑に変化】



【長浜方面の白鳥丸と亀丸が複雑に変化】

4.4月18日(3回目)

カントリーエレベーター付近のクレーンは無くなり再度確認は出来なかった。志田浜方面の護岸が複雑に変化しているなか小舟が有り乗っている人は上位蜃気楼が発生していることは知らないであろう。長瀬川河口の護岸にはテトラポットがあり、それが複雑に変化していた。



【カントリーエレベーター方面の変化】



【志田浜方面の護岸と小舟、護岸が複雑に変化】



【長瀬川河口付近の護岸と小舟、護岸が複雑に変化】

5.まとめ

蜃気楼は今まで単純な上暖下冷の二層で説明されてきたがクレーンのブームの屈曲具合を見ると、相当複雑な屈折をしていて時間とともに常に変化し続けていることが解った。後方の風景もブームの屈曲とともに伸縮しているのを撮影出来た。これが私の今年の最大の収穫であった。